

令和3年度第6回西宮市民ファミリーハイキング事業報告

奥アンツーカ（株）

【実施日時】 令和4年2月26日(土) 10:00~12:00

【実施概要・コース】

第6回ハイキングは、晴天に恵まれ、今年度で最高の61名申込、参加52名で実施しました。



集合は阪急門戸厄神駅前にあるビルの前の広場で、ビルオーナーの方のご厚意により、集合場所にさせていただきました。

当日は、阪神電車が事故の影響で遅れた関係で、全体を2手に分け、9:45頃と10:00頃に門戸厄神駅前を出発しました。

まずは、厄神さんとして親しまれている門戸厄神（東光寺）の見学です。

東光寺は天長6年（829）弘法大師の開基といわれ、境内にある厄神堂の本尊は日本三体厄神の一つで、初厄神の1月18・19日には厄除開運を願う多くの参詣者であふれ、十日戎につぐ賑わいといわれています。小高い場所にある厄神さんにお参りした後、続いて山陽新幹線記念公園に向かいました。

あまり知られていない場所ですが、この公園はトンネルに出入りする山陽新幹線を真上から見る事ができる場所です。1972年（昭和47年）の山陽新幹線の開業時に造られた公園



で、長さ約16キロの六甲トンネルの東側のトンネル入り口の真上にあります（トンネルの西側の出入口は新神戸駅）。高速でトンネルに出入りする迫力ある新幹線を間近で見ることができます。

この日は、しばし、新幹線の通過をみなさんで待ちましたが、残念ながら新幹線を見ることはできず、全員が公園を離れて1分後ぐらいに新幹線が見えたようです。

気を取り直し、関西学院大学に向かって坂道を昇り、台地の上に出たところにあるのが、甲東梅林です。

甲東公民館の敷地内にあり、早咲きの1月から遅咲きの3月まで39品種（約200本）の梅が楽しめます。この辺りは今、高級住宅街ですが、昔は果樹園が広がっていたところで、梅林はその名残りです。この梅は、貿易商として活躍した芝川又右衛門が、明治17年この地一帯に果樹栽培とともに、梅、桜、楓、樟などを植栽したもので、今



では樹齢 100 年を超えるものも多く残っています。

甲東梅林の梅は、多品種で早咲きから遅咲きまで多品種の梅が植えられています。この日は晴天に映える梅を楽しみながら、その昔、果樹園が一面に広がっていたころに思いを馳せました。

続いて、関西学院大学に向かいます。この日は、残念ながら、当初予定していた関西学院大学博物館の見学も、学食での昼食も新型コロナウイルスの影響で、学内に入講できないことからあきらめざるを得ず残念でした。

この日は、外から外観を眺めて解説を聞きました。

関西学院大学は、昔からこの西宮市の上ヶ原にあったのではなく、1889 年（明治 22 年）、アメリカ南メソヂスト監督教会派遣の宣教師ウォルター・R・ランバスによって、いわゆる「原田の森」（現在の神戸



市灘区王子町・原田通) に創立されたものです。当初は、神学部及び普通学部の 2 学部から始まり、1912 年(明治 45 年)には、専門学校令による高等学部文科・商科を開設、高等教育機関となりました。

創立 40 周年を迎えた 1929 年（昭和 4 年）、校地拡張と大



学昇格基金等の捻出を目的として、上ヶ原校地（現在の兵庫県西宮市上ヶ原町）に移転しました。その後 1932 年（昭和 7 年）に大学令による関西学院大学が設立認可され、1934 年に法文学部・商経学部を開設しました。

上ヶ原キャンパスの設計・監理は、W・M・ヴォーリズ建築事務所で、施工は竹中工務店です。

キャンパス内は、図書館を中心に、中央芝生を囲んで両側に建物を配置するという配置になっており、また赤色の素煉瓦とクリーム色のスタッコ壁、連続アーチのスパニッシュ・ミッション・スタイルの校舎建築にほぼ統一されており、近代建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの代表的作品の 1 つとなっています。2009 年、西宮上ヶ原キャンパス内の時計台（旧図書館）が国の登録有形文化財に登録されています。

アンケートでも、入講できなかったことを残念がる方が多くいらっしゃいましたので、近い将来、関学の見学を実施したいと思っています。

最後は、立派な街路樹が道の中央に続く、「くすのき通り」を通過して、全員完歩の上、阪急甲東園駅で解散しました。

